

越州嫡男並妻尼事

弘安四年一〇月二七日 六〇歳

九月九日の雁鳥てがみ同じき十月廿七日飛来仕り候ひ了んぬ。

抑そもそもえっしゅう越州ちやくなんの嫡男並びに妻尼の御事是非を知らざれども、此の御一門の御事なれば謀反よりの外は異島流罪は過分の事か。将又はたまた、四条三郎左衛門尉殿びんぼうの便風、今に参府せざるの条何事ぞや。定めて三郎左衛門尉殿より申す旨候か。伊与殿の事存の外の性情にして智者なり。当時学問隙無く